

経営と健康

第2回

日本ロータリークラブ創立者 米山梅吉

講談師 一龍齋貞花

社会に奉仕、公共事業と、口ではないものの中々実行できません。

日本ロータリークラブを創立した米山梅吉は、「後進のためにも早く隠居して、社会のために、成功した老人達は、有益な公共事業をしてほしい」とこの気持ちで、創立へ立ち上がったのです。

政界の実力者 井上馨の紹介で三井銀行に入行した米山は、どんどん頭角を現し入行九ヶ月で神戸支店次席に昇進。

延宝元年日本橋本町一丁目に開店した越後屋は、三井高利の商法素晴らしく、現銀掛け値なしというヨーロッパより百年、百五十年早い正札販売で、呉服屋から両替商を商い、これをひとつにまとめ今日の株式会社元祖ともいう大元方制度をつくり、この両替

商が明治九年日本最初の私立銀行として、三井銀行が設立されました。

三井銀行の祖と言われる中上川彦次郎は、近代的商業銀行とするため大改革を行い、月給を安くして手当、弁当代、住宅など、三井家からの恩恵という支給のやり方を変え、成績本位の昇給昇進を行う一等席から十等席までの給与体系を作り、十等席は小学校卒業九等席は中学や商業学校卒業などの初任給を決め、日本におけるサラリーマン給与体系の最初ともいわれます。

横浜支店長時代、外国人居留地とあって貿易商も多く、英語の出来る米山の活躍の場はさらに広がり、大阪支店長を経て入行十三年目四十三歳の時、池田成彬と共に三井銀行常務取締役就任。池田は後に日銀総裁、大蔵大臣を務めるなど日本金融界の第一人

者となり、米山とは生涯の友であり、よきライバルでした。

外国との交渉に抜群の力のある米山は、朝鮮、満州、支那をはじめ、アメリカ、イギリスにも出張。四十七歳の時、新隠居論を発表。銀行は、信用と徳が大切、人物の養成と共に、社会奉仕という理念を強く持っていた梅吉は、ダラスのロータリークラブ会合にゲストとして出席した経験から、日本でも作るべきという気持ちで強くしていったのでございます。

ロータリークラブの発祥

ロータリークラブの起りは、シカゴに弁護士事務所を開いていた青年ポール・ハリスが、三人の友人と相談して信頼できる公正な取引をし、仕事

の付き合いから、親しい友人となるような仲間を増やしたいと思い定期的に会合を持つクラブを、一九〇三年二月二十三日に設立。ハリス三十五歳。業種に偏りが無いよう出来るだけ異なる商業の人に声をかけ、政治と宗教だけは除外。ですからその後、チャーター、ケネデー、ブッシュ、サッチャーといった代表的政治家も、議員の間は資格停止、政治的中立が守られています。

ロータリーの観念は世界平和です。最初の会合は、有志の昼食会で会員の店や事務所を持ち回りで行ったところから、ロータリーと名付けられ、やがて志を同じくする人々によつて各地にクラブが誕生しどんどん会員が増え、五年後の一九一〇年、十六のクラブが出来、アメリカ国内に連合会成

立。さらにイギリス、カナダと広がり一九二二年、初の国際連合会開催。

一九一七年アーチ・C・クラブ会長が、アトランタで「世界でよいことをするための基金を設けましょう」この基金がロータリー財団と名付けられ、百周年を迎えます。設立されて十年後の一九二二年には完全な国際組織となり、その名もロータリー・インターナショナル。一九二九年、五百ドルが国際障害児協会へ贈られました。

日本のクラブ創立へ

米山が、ダラスのロータリークラブの会に出席した三年後、三井物産ダラス支店長福島喜三次が日本に帰国「米山さん、ロータリー国際連合から東京でもクラブを設立したらどうかと勧められています」

「私も、友愛の精神で社会に貢献したいと思っていました。皆に呼びかけ東京にも作りましょう」

二人は知人、友人に働きかけ、大正九年（一九二〇）十月二十日、世界十二番目の国として東京ロータリー

クラブ創立。翌年の四月一日、世界で八五五番目のクラブとして国際ロータリーに加盟が認められ、米山が会長に就任、五十三歳、三井銀行常務取締役在任中で、設立参加者は、

日本銀行理事	深井英五
日本染色取締役	藤野正年
三井物産支配人	福島喜三次
明治生命専務	藤田讓
内外興業社長	藤原俊雄
堀越商会会主	堀越善重郎
星製菓社長	星 一
東京市電気局長	井上敬次郎
北海道炭鉱社長	磯村豊太郎
日本郵船社長	伊東米次郎
日興證券社長	岩井重太郎
日本製鋼会長	榊山愛輔
横浜正金銀行副頭取	梶原仲治
芝浦製作所取締役	岸敬二郎
北島商会会主	北島亘
三越専務	倉知誠夫
三井鉱業常務	牧田環
建築士	長野宇平次
日本興業銀行副頭取	小野英次郎
東京商科大学学長	佐野善作
清水建設代表社員	清水釘吉

東京日々新聞取締役 対馬健之助
富士紡績社長 和田豊治
南海産業社長 三神敬長
三菱製紙社長 田原豊
弁護士 宮岡恒次郎
明治製糖社長 相馬半治
千代田組顧問 朝吹常吉
以上二十九名が創立会員。

当時の財界の主要人物、会社のトップクラスの人達です。多忙とあつて例会の出席や、クラブの活動は順調ではなかったが、会長の米山は海外出張以外は必ず出席し、ロータリーの大切さを説き続け、東京に続いて三年後大阪ロータリークラブ設立。

大正十二年九月一日、関東大震災、東京全滅のニュースが海外に伝えられるや、世界各国ロータリークラブから、総額八万九八〇〇ドルもの義援金を送られて参りました。

東京ロータリークラブは、この友情に感謝して改めてロータリー精神に目覚め、これを機に本格的な社会奉仕活動をはじめます。

大震災による多くの孤児を救うため、東京都孤児院の中にロータリーの家を

新築、焼失した一八八の小学校や、産婦人科医療病院、殉職警察官遺族などへ救援活動を行い、ロータリークラブの重要性を認識させ、こうした活動の刺激をうけて、神戸・名古屋・京都・横浜、そして大正十二年、京城、奉天、台北など日本が統治している国の主要十一の都市にも次々と設立され、三十二年間貴族院議長を務めた徳川十六代家達公は、「人類一般の幸福のため、最も優秀な事業を成した」と言われた。

昭和三年十月、太平洋ロータリー大会が東京で開催され、アメリカ、カナダ、オーストラリア、シンガポール、フィリピン、中国各地から会員が家族連れで六百人も集まりロータリー精神を発揮。明くる昭和四年五月、ロータリー世界大会がアメリカのダラスで開催され、日本から米山梅吉がガバナーとして出席し、得意の英語で堂々とスピーチ、日本人の存在を知らしめる活躍で、日本のロータリークラブが発展を続けたのでございます。

しかしそれから間もなく、国際ロータリークラブから離脱し解散という悲哀は、次週の連続と致します。■